

▼ドロレブタン注射液 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 ドロペリドール (U) Droperidol 【分類】 麻酔用神経遮断剤

【単位】 ▼25mg/V [10mL]

【常用量】 ■フェンタニルとの併用：導入に0.1~0.2mL/kg[0.25~0.5mg/kg] をフェンタニル5~10 μ g/kg と共に緩徐に静注するか、又はブドウ糖液等に希釈して点滴静注。局所麻酔の補助には局所麻酔剤投与10~15分後に0.1mL/kg [0.25mg/kg] をフェンタニル5 μ g/kg と共に緩徐に静注

■単独：0.02~0.04mL/kg [0.05~0.1mg/kg] を麻酔開始30~60分前に筋注

【用法】 静注もしくは筋注

【透析患者への投与方法】 常用量 (5)

【保存期腎不全患者への投与方法】 常用量 (5)

【特徴】 短時間作用性の神経遮断剤で、鎮静作用、制吐作用を有する。メジャートランキライザーの一つで、投与後強い鎮静状態になり自発運動が抑制される。ニューロレプト麻酔に使用。患者は周囲に無関心になり鉍物化と呼ばれる状態になる。 α 遮断作用、強い制吐作用があり、大量で錐体外路症状が発現する

【主な副作用・毒性】 低血圧、不整脈、期外収縮、心停止、間代性けいれん、ショック、悪性症候群など

【モニターすべき項目】 血圧、体温、心拍数、呼吸状態、筋機能、ECG (QT延長を起こしやすい)

【吸収】 筋注により完全に吸収される (U) 10mg 筋注で鎮静作用7hr程度持続 (Foo LK, et al: Br J Clin Pharmacol 2016 PMID: 27530285)

【tmax】 20min [im] (1)

【代謝】 ほとんど代謝される (U) 酸化的N-脱アルキル化とグリシン抱合により代謝 [ラット] (1) 代謝物に活性なし (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率1%未満 [96hr まで] (1,U) 1% [im] (U) 尿中回収率75% [im] (1,U) 糞便中排泄率22% [胆汁より排泄] (U)

【CL】 14.1 \pm 4.4mL/min/kg [iv] (1)

【t1/2】 α 相は二相性で1.4minと14min、 β 134min (U) 2~3hr (11) 2hr (1) 134 \pm 13min で高齢者で延長 (U) 二相性で β 相3hr (Foo LK, et al: Br J Clin Pharmacol 2016 PMID: 27530285)

【蛋白結合率】 90%以上 (11)

【Vd】 1.5L/kg (U) 成人1.72L/kg, 小児0.58L/kg (11) 2.04 \pm 0.50L/kg [iv] (1)

【MW】 379.43

【透析性】 蛋白結合率が高いため、透析で除去されにくいと思われる (11) 資料なし (1)

【TDMのポイント】 TDMの対象にならない

【O/W係数】 3.58 [pH9.9] (U) LogP=2.9 [1-オクタノール/水系, pH7.0] (1) 【pKa】 7.64

【効果発現時間】 3~10min (U) 【最大効果発現時間】 投与後30min以内

【効果持続時間】 覚醒するまでの時間は最大12hr持続することがあるが鎮静作用は2~4hr (U)

【備考】 錐体外路症状、けいれん性疾患を有する患者には禁忌

【更新日】 20230509

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。